

山口乃々華 市役所さんぽ

春日部市役所の新庁舎に俳優・山口乃々華さんが登場!
市役所を巡りつつ、小さいころの貴重な春日部メモリーを紹介

ちょこっと

新しくなった
市役所での~んびり



2024年にはグッドデザイン賞を受賞した新庁舎。見どころもたっぷり

BLOOMY'S



習い事やダンスの思い出など
青春まるごとが春日部に!



今の自分になるきっかけとなつたダンスとの出会い

「E-girls」のパフォーマーとして活躍していた山口乃々華さん。

生まれも育ちも春日部市という乃々華さんに、2024年1月に開庁した市役所を散歩しながら、春日部で過ごした日々の思い出を伺つた。

「学校も習い事も遊び場も青春すべて春日部にありますね。小さいころは習い事をたくさんしていて、習字やピアノ、なかでもバレエは姉が先に始めていたのをきっかけに3歳から習っていました。小学校4～6年で振り付けを考えたり、技を披露したりとハマっていました」

小学校5年の時に、地元にあったダンススクール（現在のREP Performance Stage）でレッスンを受け始めたそう。

「バレエ時代から一緒に通っていた友達がいて、年1回開催される発表会では、先生にメークしてもらつて、キラキラの衣装を着て一緒に踊ることが楽しかつたです。そこでヒップホップに出会い、プロになるきっかけをつかみました。夢中になつてレッスンを受ける中で、先生からLDHが主催するEXPG（ダンススクール）のオーディションを受けることをすすめられて。そこで

の後、特待生に選ばれて、中学校3年時に「E-girls」としてデビューしました。これまでのダンス仲間や先生との出会いが縁を結び、今自分があると思っています」

高校生からは、仕事のために春日部を離れて都内の寮に入ることに。「家族は春日部にいるので、仕事で忙しい時や精神的に追い込まれた時は、帰っていましたね。いつでも安心して戻れる春日部という地元があつて本当によかったです」

春日部の学生たちとのジョイントも実現したい

今後は、かすかべ親善大使としてやりたいこともたくさんあるとか。

「これまで大使のお仕事をする中で、知らなかつた春日部の中高生の皆さんたちと一緒にものづくりや作品づくりをするような機会を作りたいなと。今は、そんな野望を抱いているところです（笑）」



②③庁舎の2階には、季節の花々が咲く花壇とベンチがある



①よく食べて、よく遊ぶ活発な子だったという山口さんの幼少期



④市庁舎に併設された「CAFE BLOOMY'S KASUKABE」にてひと休み。地元食材を用いた軽食メニューとスイーツが充実したカフェ

20年前の私です

⑤よく食べて、よく遊ぶ活発な子だったという山口さんの幼少期

Profile

1998年3月8日生まれ。春日部市の上沖小学校、大沼中学校を卒業。2012年「E-girls」のメンバーとして、CDメジャーデビュー。2020年末まで「E-girls」としての活動を経て2021年より女優として活動を開始。テレビドラマ、映画にも多数出演し、ミュージカルなどの舞台女優としても活躍の幅を広げている。2022年よりかすかべ親善大使に。

撮影場所＝春日部市役所、CAFE BLOOMY'S KASUKABE /撮影＝古川義高/スタイリスト＝栗野多美子/ヘアメーク＝永井友規
衣装協力＝muller of yoshiokubo 03-3794-4037、RIM.ARK(パロックジャパンリミテッド) 03-6730-9191、ALM.almostofficial.com、carat a 03-6434-7945 carat-a.jp



①二人がボールを蹴り始めた保育園に通っていたころ。庭や公園では、いつもボールと一緒にいた

今でも続く仲間との交流
春日部での恵まれた好環境

勇人「しかもクラブが自前のグラウンドを持っていて、あの当時は珍しかったナイター設備もあったので夜もトレーニングができました」

寿人「サッカーに打ち込むには、かなり恵まれた環境でしたね。監督も熱心に指導してくださる方で、あの当時でヨーロッパの試合などをビデオにとつて見せてくれたり、最先端のサッカーに触れさせてくれました。この時に、いろんなレベルやタイプの子と一緒にプレーし、力を合わせてゴールを決め、ゴールを守る。仲間を思う気持ちを、この幼少期に学ばせてもらったのはすごくいい経験になったと思います」

その後、寿人さんが現ジェフユナイテッド市原・千葉のジュニアユースに入団することになり、一家そろつ



①「兄と色濃く春日部で過ごせた時間が、選手としての礎になった」と寿人さん

て千葉に引っ越すことになる。

寿人「みんなと本当に仲が良かつたから春日部を離れるのが、寂しくてね。でもチームのみんなが最後に集まって見送りしてくれて」

勇人「千葉に行ってからも春日部に遊びに行ったり、向こうからも来てくれたりもしたし、それとプロのサッカー選手になった時も当時のチームメートが喜んでくれてね」

寿人「日本代表に選ばれた時も同様でしたし、今でもみんなとは、縁は途切れることなくつながっています」

公園やイベントなど思い出の場所がいっぱい！

公園やイベントなど思い出の場所がいっぱい！

勇人「小学生のころは、サッカーの試合やスライダーや流れるプールがあつた大沼運動公園によく通っていましたよね」

寿人「あの時、カップ麺ができる自動販売機が何台か並んでいて、よく友達と一緒に食べたよな」

勇人「あと春日部駅の近くにあつたスポーツシヨップのB&Dにサッカーア用品をよく見に行つたし、ロビンソンでは映画にも行ったね」

寿人「僕は、イトーヨーカドーの屋上の遊園地にあつた魚釣りができるところをよく覚えているな」

勇人「それと『大風あげ祭り』は家族と一緒に見に行つたし、『春日部藤まつり』も毎年楽しみだった。一度、藤まつりでクイズ大会をやって入賞したんだよね。でかい犬



①プロサッカー選手になれたのも原点である春日部市でサッカーを始めたからだと語る二人。イベントも開催したいそう

僕らの原点は、
春日部にある

佐藤勇人

Yuto Sato

佐藤寿人

Hisato Sato

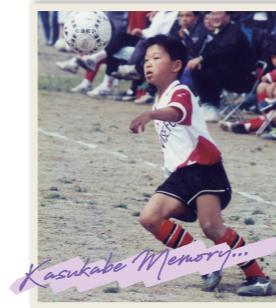


Profile

春日部市出身。双子の弟である寿人さんと春日部市の少年団チームでサッカーを始め、18歳で現ジェフユナイテッド市原・千葉とプロ契約。2度の優勝と日本代表としてもプレー。2019年にプロサッカー選手を引退し、その功績を称えられJリーグ功労賞を受賞。現在は、ジェフユナイテッド市原・千葉のアンバサダーやJリーグや海外サッカーの解説者をしている。

Profile

春日部市出身。中学進学を機に、双子の兄である勇人さんとそろってジェフユナイテッド市原・千葉のジュニアユースに入団。2005年よりサンフレッチェ広島に所属し、2012年にJリーグMVP(最優秀選手)とJリーグ得点王を獲得。2013年にはJリーグ史上初の10年連続2桁得点を達成。2020年に現役引退後は、イベント・テレビ出演やサッカーの解説者として活躍。



①小学校1年から6年まで通ったサッカークラブ。試合に出場して活躍

の置物が賞品で、今でもよく覚えている

勇人「よく家の前の団地でサッカーして大騒ぎしてたけど、近所の人たちは何も言わず優しく見守ってくれたんだなって今さらながら思う。通つた立野小学校は、校庭が広くて自由に入れて思いっきり遊べたよね。そんな春日部の温かい地域の雰囲気の中で育つたことがよかったです」



①「懐かしくて、今でも住んでいた家のあった場所に行きます」と勇人さん

佐藤勇人と寿人さんは双子の兄弟で、春日部市出身の元プロサッカー選手。2006年には、史上初の日本代表双子同時出場という快挙を成しとげた。そんな二人がサッカーを始めたきっかけとは、何だったのだろうか？

寿人「3歳ぐらいの時に、両親にサッカーボールを買つてもらつたのがきっかけだったよね？」

勇人「僕らは双子だったからボール一つで遊べるサッカーがいいだろうと考えたんだと思います。だから小さいころは寿人や父と一緒にボールを蹴つていた思い出が残つていますね」

サッカー選手を目指して
練習した春日部の日々

2024年に、かすかべ親善大使に任命された楽生さん。

「実は春日部の方には、前座のこ

ろから仕事をいただいたりしてとて

も感謝しています。二つ目になった

時にちょうど春日部高校創立100

周年のホールが創設され、このホー

ルのこけら落としではうちの師匠

(六代目円楽)に、また、私の二つ目

の披露目では師匠と大師匠(五代目

円楽)にもいらしていただきました。

懐かしく今でも大切な思い出です」



④今では伝統行事である第一回「ミス春高グランプリ」は生徒会企画だった。楽生さんは、司会も同時に担当したそう

生徒会長になって活躍! 充実した高校生活

三遊亭楽生

Sanjutei Rakusho

生徒会や実行委員会の活動に夢中になつた日々

春日部市生まれの落語家である三遊亭楽生さん。生まれた病院では、「春日部夏まつり」のお囃子が聞こえてきたと母から聞いたそう。

「だから僕が生まれて初めて聞いた音は、夏まつりの音ですね」

3歳まで春日部市にいたが、その

作して10年がたつましたが、今も市役所の電話の保留音で流れたり、防災無線チャイムの曲として流れたりと、何かのたびにタイミングよく耳に入ってきてうれしくなりますね」

春日部市の好きなところは地域に誇りを持っているところだとか。

「春日部市の皆さんの印象は、謙虚。その謙虚さと誇りを併せ持つ市民性は、なかなか珍しいと思います。地元愛もどつても深いですよね」

後は引っ越しで隣の岩槻へ。しかし豊春幼稚園、春日部高校に通い、ずっと春日部市との縁は続いた。なかでも春日部高校時代は、楽生さんに「発想が人とはちょっと違っていて、いじられっ子の時もあったのですが、春日部高校に入学して先生や友達からおもしろい奴だと思ってもらえて、その勢いで生徒会長や文化祭実行委員会もやつっていました。しかもこの高校は自由な校風で、催しなどの企画も含め、生徒会のお金の予算組みまで任されました。「春高ジェンカ」を1000人が参加できる規模にしたり、「ミス春高グランプリ」などのイベントを企画して文化祭では自分で業者に依頼して花火をあげたことも。学校に報告してなくて問題になりました(笑)」



⑤地元の落語会も楽しみ! 2024年にかすかべ親善大使に就任。「春日部の魅力を日本中…いや世界中に発信できたらと思います!」と今後の抱負を語ってくれた

市民おなじみのナンバー

春日部市の歌も制作!

あえか

Aeka



Profile

春日部市出身の鍵盤弾き語りシンガーソングライター。2003年から音楽の道を志し、2008~2013年には東武伊勢崎線や野田線の沿線で路上ライブを行い、ファンを獲得し、2013年にメジャーデビュー。2024年には、FM NACK5にてオリジナル曲「証明写真機」が月間ランキング1位に。音楽評論家の富澤一誠氏から絶賛される。

太田裕美

Hiromi Ota

今でもこどもが自由に遊べる 豊かな自然が残る街

初夏には家の近くで ホタルの姿も

Profile

1974年に『雨だれ』でデビューし、以後「木綿のハンカチーフ」「九月の雨」「さらばシベリア鉄道」「君と歩いた青春」など、数え切れないほどの名曲の数々でヒットを記録。フォークと歌謡曲というジャンルの枠を超えた新しいシンガーとして、J-POP女性ヴォーカリストの道をひらいた。2024年10月、デビュー50周年を迎えた。

Profile

大学卒業後、テレビのキャスターなどを経て、2006年に気象予報士の資格を取得。NHK「ニュースウォッチ9」で気象キャスターを担当した。結婚後は民放でお天気キャスターなどとして活躍。地元の気象については、「春日部市はもともと災害が少ないですが、首都圏外郭放水路(P12)ができるからには浸水が減りました」とのこと。

**市民が誰でも知っている
春日部市に流れる市の歌**

春日部市の歌「心の空」を2015年に制作。当時の小学生が書いた1604通の春日部のエピソードにすべて目を通したのだそう。

「とても1曲で収まらない量で、制



④「春日部夏まつり」には、家族やいとこと一緒にハッピーや浴衣を着て参加していた

小学生のころにハマった "カタツケ拾い" の思い出



Profile

1974年に『雨だれ』でデビューし、以後「木綿のハンカチーフ」「九月の雨」「さらばシベリア鉄道」「君と歩いた青春」など、数え切れないほどの名曲の数々でヒットを記録。フォークと歌謡曲というジャンルの枠を超えた新しいシンガーとして、J-POP女性ヴォーカリストの道をひらいた。2024年10月、デビュー50周年を迎えた。

「春日部市は東京からも近いのに、自然がたくさん残る場所。小学生のころ、友達と自転車で近くの古利根川まで行き、貝拾いにハマっていました。正式には確かカラス貝という貝だったと思いますが、地元で「カタツケ」と呼ばれていました。食べたりはせずに拾うだけでしたが、なぜか楽しくてしゃがゆう出かけていましたね。今は必ずいぶん交通の便もよくなりましたが、こどもが自由に遊べる豊かな自然と、田舎っぽいよさがいまでも残っているとうれしいです」

「春日部市は東京からも近いのに、自然がたくさん残る場所。小学生のころ、友達と自転車で近くの古利根川まで行き、貝拾いにハマっていました。正式には確かカラス貝という貝だったと思いますが、地元で「カタツケ」と呼ばれていました。食べたりはせずに拾うだけでしたが、なぜか楽しくてしゃがゆう出かけていましたね。今は必ずいぶん交通の便もよくなりましたが、こどもが自由に遊べる豊かな自然と、田舎っぽいよさがいまでも残っているとうれしいです」

井田寛子

Hiroko Ida

こどもと帰省する際は エンゼル・ドームに立ち寄ります



Profile

大学卒業後、テレビのキャスターなどを経て、2006年に気象予報士の資格を取得。NHK「ニュースウォッチ9」で気象キャスターを担当した。結婚後は民放でお天気キャスターなどとして活躍。地元の気象については、「春日部市はもともと災害が少ないですが、首都圏外郭放水路(P12)ができるからには浸水が減りました」とのこと。

「関東平野のど真ん中にあって空が広くて四季折々の景色が楽しめます。幼少期、実家の周りが田んぼだらけだったので、初夏にはホタルも見られました。中学生の時、初めて友達と一緒に「春日部夏まつり」に行き、ドキドキしながら露店を回りましたね。こどもと帰省する時は、エンゼル・ドームによく立ち寄ります。施設が充実していて、春は目の前の河川敷沿いの桜も見事。いつまでも災害がない、こどもが安心して過ごせる街であつてほしいです」